

「中之条町過疎地域持続的発展計画」（素案）に関するパブリックコメント(意見募集)結果

「中之条町過疎地域持続的発展計画」の策定にあたり、その素案を示すとともに、意見募集（パブリックコメント）を実施したところ、2名の方からご意見を頂きました。このたび、ご意見の要旨および町の考え方がまとまりましたのでお知らせします。

- (1) 募集期間 ： 令和7年11月14日 ～ 令和7年11月25日
- (2) 提出方法 ： 意見募集フォーム（インターネット）、メール、FAX、郵送、持参
- (3) 提出人数及び意見数

提出方法	提出人数	意見数
意見募集フォーム （インターネット）	1	4
持参	0	0
郵送	0	0
FAX	1	1
Eメール	0	0
合計	2	5

※個人情報が含まれる意見につきましては、掲載しておりません。

(4) 提出された意見の要約及び町の考え方

番号	該当箇所	意見内容	町の考え方	修正の有無
1	9 教育の振興 (4) 公共施設等総合計画等との整合 50 ページ他	「給食センターやスクールバス管理事務所は必要不可欠な施設ではありますが、人口減少、少子高齢化により町全体のこどもの数は大きく減少する見込みであり、施設の集約化や施設規模の適正化を進めます。」 上記の内容から、現在の計画が 高齢者主体の視点で立案されているのではないかという懸念を抱いております。 日本全体で少子高齢化が進むのは事実ですが、だからといって未来の担い手である「こども」に焦点を当てない計画になってしまっては、本来の地域活力は生まれません。 高齢者を敬うことは当然大切ですが、それと同時に 「こどもが健全に育ちやすい環境」を町が率先して整える必要があります。	本町では「中之条町公共施設等総合管理計画」(平成28年10月策定、令和3年3月改訂)を策定し、公共施設等の全体を把握するとともに、実態や利用状況、維持管理コスト等の現状や課題を整理し、公共施設のファシリティマネジメントを徹底することにより、財政負担を軽減、平準化し、可能な限り公共施設等の機能を維持しつつ、次世代に負担を残さない効率的、効果的な公共施設等の最適な配置の実現に努めています。町の人口は、2045年には1万人を下回る見通しであり、「あったら便利」「ここにも欲しい」ではなく、「ないと困る」「なくてはならない」これからの公共施設の在り方を考え、未来へと繋いでいきます。計画は、PDCAのマネジメントサイクルにより、必要により見直しを適時行っていくます。 ご意見頂きました給食センターにつきましては、老朽化等の施設状況や調理食数などの需要度も考慮し、関係機関と連携の上、安心安全な給食の提供と効率的な施設運営に努めます。 スクールバスの運営につきましても「29 ページ(ii) 公共交通」で記載した通り、従来の利便性を維持するとともに効率的な運営を進めていきます。 上記他、各施設の方向性につきましても、全ての世代が中之条町で暮らしてよかったと思える行政運営を進めるとともに、老朽化等の施設状況や利用頻度などの需要度も考慮し、関係機関と連携の上、決定してまいります。 ご提案につきましては、貴重なご意見として、今後の施策の参考とさせていただきます。	無
2	7 子育て環境の整備、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進 (1) 現況と問題点・・・(i) 子育て環境・少子化対策 (2) その対策・・・(i) 子育て環境・少子化対策 (3) 計画 39 ページ他 9 教育の振興 (1) 現況と問題点 (2) その対策 (3) 計画 46 ページ他	給食センターやスクールバスの充実、町の未来を支えるうえで絶対に必要です。 現在、全国的に給食の1食量が減少していると言われています。多くの自治体が給食費無償化に注力していますが、無理に無償化に踏み切る必要はなく、従来どおり「補助」の形を維持しながら、子どもが健康的でバランスの取れた食事を十分にとれるよう、給食の質を高めるための財源確保を優先していただきたいと考えます。 また、給食の内容は現代に合わせてアップデートできるはずです。 ・地元農家・シェフ・野菜ソムリエなどによる給食監修(新潟県、長野県、東京都、兵庫県で事例あり) ・放課後の特別授業(町内外からゲスト講師を招く) ・放課後学校で受講可能な習い事教室の創設 など、地域の特性を活かしながらできることは多くあります。	町の未来を担う子どもたちの育成に関わる施策に関しては町としても重要であると認識しております。 給食センターやスクールバスの充実、子どもたちが安心して学び、健やかに成長するために不可欠な要素であると考え、現機能を維持しつつ持続的に運営できるよう努めます。 給食の質と財源確保に関するご意見につきまして、中之条町では、給食費の無償化後も十分な予算を確保し、地域資源を活かし、栄養バランスの取れた、質の高いおいしい給食を提供しており、今後もこれを継続していきます。 放課後に関するご提案も、子どもたちの多様な学びの機会を創出し、豊かな人間性を育む上で必要な機会であり、地域の教育力の向上に繋がり、子育て世代の定住促進にも寄与に繋がると期待されます。 ご提案につきましては、貴重なご意見として、今後の施策の参考とさせていただきます。	無

番号	該当箇所	意見内容	町の考え方	修正の有無
3	6 生活環境の整備 （１）現況と問題点・・・（vii）公園 （２）その対策・・・（vii）公園 （３）計画 3 4 ページ他 9 教育の振興 （１）現況と問題点 （２）その対策 （３）計画 4 6 ページ他	税金の使い道は、これからの子どもと若年層の家族に焦点を当てて検討すべきです。 給食に力を入れている自治体、ICT教育が進んでいる自治体、中高連携教育を行う自治体では、子どもとその家族の流入が大きく増えている、または人数が安定していることが統計的に分かっています。 さらに、教育施設に力を入れている学校は私立・公立問わず人気が高く、東京都内ではすでにその動きが加速しています。 一方で、中之条町では、 ・体育館の壁が壊れたままの状態（ツインプラザ横の総合体育館） ・公園の数が少ないまたは整備が行き届いていない ・日陰や遊具が十分でなく、子どもが使いにくい といった状況が見られ、子育て世帯にとって安心して子どもを通わせられる環境とは言い難い面があります。子育てに手厚いというアピールポイントも他地域と比べて差はなく、残念ならそれが一般的になりつつありますので、特色としてアピールはし難いです。雄大な自然があるにもかかわらず、活用され切れていない点も非常にもったいなく感じています。大きな資金がなくてもできる改善はたくさんあります。 子どもが安全に外遊びできる場所を増やし、自然と触れ合いやすい環境整備をぜひ検討していただきたいです。	中之条町の未来を考える上で、子育て環境の充実は、町として最も重視すべき点の一つであると認識しております。 中之条町では若年層世代、子育て世代を対象とした補助・支援等に力を入れており、「中之条町人口ビジョン」に示している通り、0歳から14歳の年代の転入超過につながるなど一定の成果を上げていると考えています。しかし他の自治体でも力を入れており、差がない状況になりつつあると認識しております。 体育施設や公園等の老朽化・整備状況等につきましては、町も課題として認識しており、安全確保と施設機能の維持のため、修繕に向けた検討を進めております。 今後、中之条町が持つ地域資源を活用しながら、中之条町にしかない施策を講じられるよう、関係各所と連携して事業を進めてまいります。 子どもが安全に外遊びできる場所を増やし、自然と触れ合いやすい環境整備を検討していきます。	無
4	2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成 （１）現況と問題点 （２）その対策 （３）計画 1 3 ページ他	長野県に「パワーカップル」と言われる共働き子育て世帯が多く移住している理由の一つは、 ・教育面が首都圏に劣らないこと ・安心して子どもを預けられる環境があること とされています。 また、近年は新幹線通勤やリモートワークの普及により、群馬県を含む地方にセカンドハウス・移住拠点を持つ家族が増加しています。 全国の子育て世帯が「地方でも都市部と同等の教育環境があること」を求めているのは確実であり、中之条町もその流れに乗るべきだと強く感じています。	リモートワークや二地域居住など新たな働き方・生活の普及により、群馬県を含む地方にセカンドハウスや移住拠点を設ける家族が増加し、中之条町にもそのような移住者が増えておりますが、中之条町が持つ自然環境や地域資源の魅力を最大限に活かす大きなチャンスであると捉えています。 町としまでも、教育・子育て環境が、都市部の家族にとって魅力的な選択肢となるよう、引き続き施策の検討と実行に力を入れてまいります。	無